

## ＜産地レポート＞

# 高知県における「苗箱まかせ®を活用した 水稲育苗箱全量施肥法」の普及事例

JA全農こうち 営農総合対策課 技術参与 前田 幸二

近年、「苗箱まかせ®」を活用した水稲育苗箱全量施肥法は、本技術の発祥の地である秋田県や青森県など東北地方のほか、関東各県でも普及面積が拡大し、全国的な広がりを見せています。本技術は、「育苗管理が成功のカギ!」と言われており、特に、育苗期が高温になる西南暖地では、「苗が徒長する」、「苗が乾く」、「根ばりが悪くなる」などの問題が発生しやすいことから、広く普及するには至っていません。

このような中、高知県のJA高知はたでは、既に2戸の生産者が導入し、安定した生産を続けています。その中から四万十市のAさんの事例を紹介します。

Aさんは数年の試験を経て、8年ほど前から本格的に取り組み、3月中旬植えの早生稲～5月中旬植えの中生稲まで、計画的に播種・田植えを行い、毎年、地域の平均単収以上の収量を得ています。ピーク時には、早生・中生合わせて25haまで規模拡大し現在に至っています。導入当初は、生育初期の分けつ数の確保が遅れて随分心配されたそうですが、その後は秋まさり型の生育相を示して収穫を迎え、毎年安定した作柄となっています。

Aさんの育苗の概要と作業のポイントは以下のとおりです。

- ①早生：「苗箱まかせ®N400-100B30（60タイプを約30%、100タイプ約70%混合した銘柄）」を630g/箱、20箱/10aを使用し、育苗期間は25～30日。（品種；コシヒカリ）  
中生：「苗箱まかせ®N400-120」を950g/箱、20箱/10aを使用し、育苗期間は約14日。（品種；ヒノヒカリ、にこまる等）
- ②早生・中生ともに、「とにかく育苗期間中の温度管理と水管理が重要で、徒長しない、マット形成のしっかりした苗に仕上げる」。ハウス内にあっても、ハウス内温度を上げないようサイドを開けて換気に努める。
- ③プール育苗とし、毎日1回、水を溜めた後は、必ず排水して根張りの向上に努める。特に、高温期の育苗となる中生では、芽が出揃うと同時にプール育苗に入り安定した苗に仕上げる。



写真4. 苗箱まかせN400-100B30

- ④播種時に、育苗、圃場の準備、田植えに至るまで、しっかりとした作業計画を立てて、適期に確実に田植えを実施する。

以上のように、的確な育苗管理、作業管理を行うことで、高知県でも安定した省力・低コスト栽培を実現しています。

Aさんは、これまで「苗箱まかせ®」のみでの栽培を8年間継続し、その間、堆肥・土壌改良剤は一切投入していませんでした。一方、導入当初から土壌診断を実施しており、2014年作終了後の土壌診断結果により、リン酸、カリ分がやや減少気味であったことから、リン酸、カリの補給を始めました。

今後も土壌診断を活用してリン酸、カリの補給量を調整しながら、本施肥法での稲作を続けていく予定です。



写真1. プール育苗の様子  
(写真提供：前田幸二)



写真2. プール育苗の様子  
(写真提供：前田幸二)



写真3. 本田での様子  
(手前；苗箱まかせ区 奥；慣行区)